

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立月光原小学校
校長 岩前 真

令和7年度 目黒区立月光原小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和7年6月14日(土) 午前10時30分～正午

- ・ 学校経営の説明
- ・ 質疑・応答

(2) 第2回実施日時 令和8年1月17日(土) 午前10時30分～午後1時

- ・ 四者による学校評価アンケート結果の説明
- ・ 次年度学校経営方針の説明
- ・ 質疑応答

2 参加者

校長、副校長、上田 秀穂 様・城市 恵子 様・高柳 由美 様・蒲田 真由美 様

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎保護者の肯定的評価は若干の減少傾向であるが、9割を超える。児童の肯定的評価も8割を超える一方で、高学年は減少傾向となった。 前年度からは生活時程や学校行事を大幅に変更していく中であっても、若干の減少となっていることは、一定数の評価を得られたととらえている。	・全ての学級において、担任と児童の信頼関係を築き、落ち着いた学級経営を行えるよう、週ごとの指導計画の充実等、日々の授業づくりを大切にしていく。 ・低学年での副担任制や、高学年での一部教科担任制を引き続き実施していくとともに、時間講師を含めて情報交換を密にして複数の教員で児童を育てていく。 ・特別支援教室の巡回教員や巡回心理士、スクールカウンセラー等と連携し、保護者との連携のあり方、合理的配慮の提供も含め、特別な支援を要する児童への	・担任の先生が、一人一人の児童に向き合っている様子が見て取れる。 ・子どもとの信頼関係も高まっている。 ・保健室の様子から、学校全体が落ち着いている様子がうかがえる。

		<p>適切な指導・支援を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から実施した週時程を継続し、児童がより見通しをもって学校生活を送ることができるよう、定着させる。 	
<p>II 教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、時程、教育内容全体について 	<p>◎保護者の肯定的評価は昨年度から若干の減少となり、81ポイントとなった。教職員は100ポイントと上限に達した。</p> <p>8割に達していることから評価を得られていると考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の重点項目を引き続き「すすんで学習する子」とする。校内研究の説明と合わせて重点的に、年度当初の保護者会で説明していく。 ・学校だよりやHP等で、現在取り組んでいることを特集していく。 ・ボランティアの積極的な募集を行い、来校する機会を意図的に増加させていく。 ・研究発表会を公開し、重点目標への取組について、周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の学校経営方針が、教職員に理解されていて、指導に一体感がある。
<p>III 心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>●保護者の肯定的評価は7.1ポイントの減少となった。道徳授業地区公開講座の開催方法を検討して、道徳授業への理解を高めていく必要がある。</p> <p>◎児童からは9割を超える肯定的評価を得ている。一方で、高学年は1.0ポイントの若干の減少があった。児童の道徳的実践力の向上に向けた取組の充実が必要と考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合質問紙調査」(i-check)の活用について研修を実施して、調査分析をより一層充実させる。その分析結果を学校・学級経営の改善等に積極的に生かしていく。 ・道徳授業地区公開講座については、教師による道徳科の授業に焦点を当てると共に、内容や時間設定を再検討し、保護者・地域の方がさらに参加しやすい機会となるようにしていく。 ・道徳教育推進教師を中心に、本校の課題に即した道 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合質問紙調査」(i-check)は、効果的である。より一層活用して、学校経営や学級経営の改善に役立てていくことが必要である。 ・道徳の授業の工夫が随所に見て取ることができた。一方で、授業準備が大きな負担感につながることは否めない。

		<p>徳の全体計画や年間指導計画を作成し、教育活動全体を通して道徳教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」及びいじめ防止のための取組（いじめに関するアンケートの実施、SOS の出し方や悩み相談に関する指導等）について、HP や保護者連絡システム C4th Home & School を保護者や地域にも周知する。 	
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>●保護者の肯定的評価が6.6 ポイントの減少となった。教職員は上限に達しており、差異が見られる。</p> <p>学習指導の状況を直接見られる機会は年4回の学校公開と限られていることも要因であると考えている。学校だよりでは校内研究の様子を記事にしてきたが、研究授業を公開したり、次年度予定している研究発表会に参加を募るなど、来校して実際に学習指導を目にする機会を意図的に増加させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を中心にして、授業の複線化、個別最適な学びの充実を組織的に図っていく。授業の複線化に当っては、導入の工夫が肝要であり、外部講師の指導を仰ぎながら教育目標である「すすんで学習する子」の実現に向けて進めていく。 ・5、6年生の一部教科担任制を継続して実施して、教師の専門性をより発揮して、授業の質を一層高めさせていく。 ・研究開発学校としての発表をはじめとして、研究授業の参観、学校だよりを通じた研究の様子発信等を行い、今求められている授業の在り方について、周知する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教員が、分かりやすい授業を作っている。 ・学校だよりが電子化されて、保護者が最後まで読んでいるか、疑問がある。それに伴って、学校から伝えたいことが伝わらないことが発生する可能性もある。 ・学習指導の目指す方向性については、保護者からなかなか分かりにくい。一方でよく見ると、ノート作りから、一年間積み上げられてきた指導の成果が見られた。明確に理解できる成果を、学校からアピールしていく必要がある。 ・学校公開の時は、学習用情報端末を使用して学ぶ授業だけではなく、子どもが発表する機会も設けると良い。子どもの声が保護者に直接聞こ

			えるようにすることも、学習指導の様子を保護者に理解してもらうには効果がある。学校公開時の授業作りの工夫が必要である。
V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎保護者の肯定的評価は8.1ポイントの減少である。一方、低学年は10ポイント超、高学年は4ポイント超の増加となった。縄跳びや持久走といった取組の効果が、子どもたち自身に意識されるようになってきていると考える。 保護者と児童との間で意識のズレがみられる。	・スポーツタイムの一層の充実を図り、児童がさらに主体的・意欲的に参加できるようにする。 ・スポーツテストの結果分析やスポーツタイムにおける指導等、学校健康トレーナーを積極的に活用していく。そして、保護者会や学校保健委員会を通じて、体力に関する現状や指導について説明する機会を設けていく。	・学校における体育、地域における社会体育が、それぞれつながり合っていくことが必要である。両者が連携することで、子どもたちが日常的に、体を動かす楽しさを味わい、体力を伸ばす環境作りになる。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎保護者の肯定的評価は、9.9ポイントの減少となった。昨年度の周年行事のにぎやかさから相対的に減少していると捉えている。 いずれも8割以上の高評価であるとはいえ、変化への説明は今後より一層丁寧に行っていく必要があると考えている。	・各取組の評価や改善等について、保護者会、学校だよりや地域行事の機会等を通じて丁寧に説明して、理解を得ながら着実に進めていくようにする。	・学校行事は、それぞれのねらいの下で、適切に指導され、成果を積み重ねてきている。社会の新たな課題に対して、様々に改善することが今後増加することが予想される。
VII 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎保護者は約5ポイント、高学年児童は約7ポイントの肯定的評価減少となった。 不登校対応については複雑化の傾向が続いており、解決に導くこ	・教室から飛び出してしまう児童や、授業が成立しないような場面は見られない。一方で、落ち着いて授業を受けられる場面は100%とは言えない。常に教員の指導力を向上させて、「分か	・座り方や、授業中の態度において、気にかかることがある。周りのことを気にしない世の中の風潮がある中で、学校でも姿勢について指導して、いけると良い。

	<p>とが簡単ではない。</p> <p>全校で話を聞く態度や場の雰囲気をつくる力が身に付いてきている。</p> <p>高学年の特性として、生活指導が充実及び徹底されていく中で、相対的に「自主性が阻害されていく」と感じているものと捉えている。</p>	<p>る授業」を行っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活のきまりは、代表委員会を通じて、子どもたちを主体として改善をしている。自分たちで学校生活をよりよくしていく、という意識を高めさせるべく、今後も継続して行っていく。 不登校対応をはじめ、外部機関との連携をより一層充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導上の共通理解事項が教職員一人一人に理解され、指導の徹底がされている。より一層努力を今後も続けてもらいたい。
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎「安全教育について」</p> <p>「事件・事故等の防止について」の保護者の肯定的評価は、それぞれ約8ポイント、約13ポイントの減少となった。交通安全については、警察の協力を得ながら、個人登校に向けての改善を図っている。今後への不安が数値に表れている可能性が考えられる。</p> <p>なお、児童の避難訓練への参加姿勢は充実しており、評価ができる一方、情報モラルについては、学習用情報端末の使用方法等、年々問題が複雑化している。情報モラルについての指導をさらに充実させていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 性犯罪や性暴力対策としての「生命（いのち）の安全教育」を各学年で年1回実施する。 学校防災マニュアルを改訂させうえて、教職員間での共通理解を充実させる。 情報モラルについては、年間指導計画に位置付けられており、着実に実施するとともに、セーフティ教室においても取り上げる。またそのセーフティ教室に保護者の参加をより一層促していき、学校と家庭が協力して情報モラル教育を充実させていくきっかけを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様々な取組が着実に進行している。一方で、保護者からは見えにくいものである。伝えることの工夫と、参加を求めていく工夫も考える必要がある。

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園・こども園との連携について 	<p>◎保護者の肯定的評価は、15.1ポイントの大幅な減少となった。</p> <p>昨年度と取組内容に変更はない中で、目黒南中学校となり、新たな体制での小中連携の評価が難しいと考えられる。参観をする機会が少なく、また、あいさつ運動などの見える活動がなくなり、見えにくくなっていることが要因と考える。</p> <p>また、げっこうはらこども園をはじめとして、近隣保育園及び幼稚園との積極的な交流、施設貸し出し等を行っているが、これも同じく保護者からは見えにくいものとなっている。</p> <p>研究発表の機会や保護者会の機会等で、活動内容を伝えていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、本校が幹事校となる小中連携において、目黒南中学校、碑小学校、向原小学校、原町小学校とより一層連携していく。まずは、関係者間での事前の打ち合わせを綿密に行い、着実に取組を向上させていく。 ・目黒区教育委員会教育開発指定校として、架け橋プログラムをより充実させて、目黒区内はもちろん区外の諸学校や保護者地域へ、10月22日に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組は、今後も引き続き続けていくことを望む。取組内容の見える化を工夫していくことが今後の課題である。
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎保護者の肯定的評価の割合は6ポイント程度の減少となった。前年度の非常に高い評価からすれば、減少幅が大きい、8割を超えた肯定的評価を得ており、一定の理解を得ていると捉えている。今後も引き続き肯定的評価を得られるよう、工夫をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者連絡システム C4th Home & School を大いに活用して、紙媒体での情報発信をさらになくしていく。 ・表題の工夫、内容の精選等の発信方法の充実から内容への充実へと段階を上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者・地域への情報発信を工夫して実施してほしい。

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教員の肯定的評価は上限である。誇りをもって日々の職務に励んでいるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己申告面接の機会等を通して、教職員一人一人の業績等を価値付けて、さらに仕事のやりがいを感じられるよう、管理職は努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員一人一人が自分の役割を自覚し、使命を果たせるよう日常的な機会をとらえて、管理職が指導していく。
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎教員の肯定的評価は非常に高く、上限である。ハード面・ソフト面での改善が効果を表している一方で、時間外在校時間等はまだ改善途上である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己申告面接等を通して、教職員一人一人が学校経営に関わっていく意識を高めさせていく。また、様々な課題が日々発生する中で、課題発生を未然に防ぐよう、日々の学習指導、生活指導を充実させていく。 <p>なお、課題が発生したとしても組織的対応で迅速に且つ適切に対処できるようにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の働き方改革が、子どもたちの幸せ、学校の楽しさの向上につながっていくということ、保護者も地域も全体が理解をしていく必要がある。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎教員の肯定的評価は上限である。当然であるとはいえ、服務事故を起こさない、起こさせない意識を引き続き高めさせていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の服務事故防止研修、職員会議や職員夕会での服務に関する講話や情報提供を着実に実施して、教職員一人一人の「服務事故を起こさない」意識を高めさせていく。併せて、「服務事故を起こさせない」職場内の雰囲気醸成していく。 	